

校内研修計画

甲州市立菱山小学校

1 学校課題

本校では、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等の基本的なねらいと方針、さらに平成24年度山梨県学校教育目標指導重点とともに、児童・家庭・地域の実態及び願いをふまえ、「自ら学ぶ、責任感のある、心豊かでたくましい児童の育成」学校教育目標に設定し、日々の実践を進めている。

本校では、「自ら学習する子ども」の育成を目指し、「主体的に学習する児童の育成」を研究主題に設定し校内研を進めてきた、子どもたちに生きる力をはぐくむために、確かな学力の定着を図ることが必要とされる中、知識・技能を習得し、これらを活用し課題を解決するために、「活用する力をはぐくむ授業づくり」を中心に、算数科に焦点を当てて研究を進めてきた。

研究を推進するに当たり、児童の実態をより把握し、不足している力を明らかにしていく必要がある。それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の改善、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、「活用する力」をテーマに、共通理解のもとで取り組みを焦点化させていくことが重要であろう。「確かな学力」の育成を目指し、基礎基本の習得と、それらを活用する力をいかにはぐくむかを研究実践していくことが求められる。

2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 ~活用する力をはぐくむ授業づくりを通して~

3 主題設定の理由

昨年度の研究では、前年度に引き続き「主体的に学習する児童の育成」を目指して、授業の様々な場面で思考力・判断力・表現力を引き出すための工夫や授業改善を進めた。子どもたちもそういう授業展開が自然に身につけてきたことにより、自ら問題解決をしようとする意欲が感じられるようになってきた。授業実践の中では、「活用する力」に焦点をあてた授業づくりによって、子どもたちは様々な既習事項を組み合わせる答えを導き出そうとする様子が見られた。多様な考え方や様々な解決法を見いだすような活動を要求する学習過程を設定することによって、子どもたちは新しい考え方の発見に向けて意欲的に試行錯誤をしていた。また、多様な考え方が見いだされるようになると、発表の方法も考えなくてはならない。子どもたちが発表したくなるような場を設定し、興味関心が低下しないように効率的な表現方法や発表形態を工夫することなどを通して、児童一人一人の学ぶ意欲を引き出す授業実践を全学年で取り組んだ。それぞれの実践の中では、自分の考えを説明したり、友だちの考えを認めたりする学び合い活動を通して、思考力や表現力を高める手立てを追究することができた。

算数科における活用力とは、これまで身に付けてきた知識や技能と、算数のよさやアイデア、数学的な見方・考え方を関連させながら新しい問題を解決する力ととらえる事ができる。具体的には、「とらえる力」「組み立てる力」「まとめる力」「伝える力」「広げる力」の5つの力を活用力と押さえ、どの場面の育成に重点をおいて問題解決的な学習の指導に当たっていくか考えてきた。

昨年度の研究の成果として、「とらえる力」「組み立てる力」については、ある程度児童の力として身に付いてきている。そこで、本年度は、「まとめる力」「伝える力」の育成に重点をおいて問題解決的な学習の指導について研究を深めたい。その中で、既習の知識を活用して新しいことを考え出したり、分かりやすく表現したりすることを大切にする指導を心がけ、「線分図・数直線の指導の系統」に視点を向けた授業づくりを中心に取り組んでいく。

また、本年度も研究を推進するに当たり児童の実態をより把握し、不足している力や指導が必要な力を明らかにし、それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の改善、思考力・判断力・表現力の育成を目指し「活用する力」をテーマに、共通理解のもとで取り組みを焦点化させていきたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携し、「Q-U」調査を活用して学級集団づくりを進めるため、Q-Uの実施と分析・活用の充実を図りたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・児童の実態を把握し、課題を明確にする。

- ・算数科の授業において、基礎・基本の知識・技能を習得させ、活用力を育てるために、学習過程を工夫し改善する。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの3つの柱【授業づくり・授業改善】【学級・集団づくり】【保護者・地域との連帯】と随時リンクしながら校内研究を進める。
- ・低学年・高学年ブロックごとに指導法を研究し、それぞれ年1回の研究授業を行う。
- ・一人一実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。

年間校内研修計画

研究主任 高添 勉

研究テーマ	教科領域等	担当者	学 年	授業の時期	T C 要請
「主体的に学習する児童の育成」	・校内研の運営について ・研究主題 研究内容 ・校内研の年間計画の決定 ・授業研究の内容と計画	研究主任 各ブロック		4月	
	・授業研究の計画 ・低高ブロック研究 ・学力向上の取り組み ・児童実態把握（CRT）	研究主任 各ブロック 各担任	全学年	5月	
	・低学年授業案検討 ・算数科研究授業	各ブロック 研究主任 授業者	学年	6月	
	・低高ブロック研究(授業研究) ・実践授業研究	各ブロック	未定	7月	
	・特別支援学習会 ・教育課程研究（還流）	特別支援教育担当		8月	
	・高学年ブロック研究授業 ・研究授業授業案検討	各ブロック 研究主任 授業者		10月	
	・算数科研究授業 ・実践授業研究	研究主任	学年 未定	11月 12月	
	・低高ブロック研究 (成果と課題)	各ブロック 研究主任		1月	
	・校内研究全体の成果と課題	研究主任		2月	
	・次年度教育課程 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	